

発行：株式会社リンク・インタラック
担当：事業統括ユニット プロダクト開発グループ
住所：東京都中央区銀座四丁目12番15号
TEL：03-6853-8265 FAX：03-6859-9070 E-mail：info@interac.co.jp



子どもたちのドリームサポートプロジェクト 英語スピーチコンテスト開催

未来に羽ばたく小学生に英語で夢を語ってもらい、学習意欲とその実現をサポートする英語スピーチコンテスト「子どもたちのドリームサポートプロジェクト」（主催＝リンク・インタラック）の最終選考会が、2022年11月20日（日）にオンラインで行われました。リンク・インタラック創業50周年を記念して開かれた同コンテストの様態を誌上でお届けします。

創業50周年のスペシャルイベント 「英語スピーチコンテスト」開催

弊社は2022年で創業50周年を迎えました。創業時より「全人格的教育」を大切に、学校向けALT配置事業を通して、子どもたち一人ひとりが自分の可能性に気づききっかけづくりの支援を続けてきました。

グローバル化が一層の進展を見せる中、日本の学校における英語教育は、小学校における「外国語」の創設、中学校や高校においてはコミュニケーション重視の授業へと転換が図られてきました。これらの動きは現行の学習指導要領において知識の活用、そして思考力や判断力、表現力の育成が目指されていることともリンクしています。

弊社では、英語を学ぶ児童生徒の日頃の学習成果を発揮できる場として2022年に「子どもたちのドリームサポートプロジェクト 英語スピーチコンテスト」をオンライン形式で開催しました。

コンテストへの参加を通して子どもたちの▽英語学習のモチベーション▽自らの考えを自信を持って発信する力▽自立に向け、社会の中で自分の役割を果たしながら自分らしい生き方を考える力——を高めるのが狙いです。外国語による言語活動を通して身に付けた、コミュニケーションを図る素地となる資質・能力を、小学生の皆さんに思う存分発揮してもらいました。

「私の夢」堂々と英語で発信

対象は全国の小学4～6年生で、英語スピーチのテーマは「私の夢」。スマートフォンやタブレット機器などを使って撮影した2分以上3分以内のスピーチ動画を「一般部門」「帰国子女部門」いずれかで提出してもらいました。応募期間は2022年5月2日～8月31日。応募総数は約800件に上りました。

選考方法は全国を5地域に分けて、提出されたスピーチ動画を弊社のALTが審査しました。コンテストの「狙い」を軸に、

声の明瞭さや力強さにあたる「ボイスプロジェクション」、「アイコンタクト」「内容」「表現」「時間」などを総合的に見ていきました。動画による応募でもカメラの向こうに相手がいることを想像して、はっきりと話すこと、ジェスチャーやアイコンタクトを取り入れて「自分の思いを伝えようとしているか」が問われます。これは小学校の外国語でも目指すべき学習者像であり、普段の授業で子どもたちがこうした活動がどのぐらいできているかも垣間見えるものでした。

9月の第1次選考（10月3日結果発表）、10月の第2次選考（10月28日結果発表）を経て最終審査に9名の児童が選出されました。

リアルタイムの「やり取り」で審査

最終選考は11月20日に、各地域の代表が1名ずつリアルタイムでスピーチする形で実施されました。その様態はZoomにてライブ配信され、約250人の視聴者が見守りました。最終選考の審査員は上智大学短期大学部の狩野晶子教授、弊社ALTトレーナー、デイブ コリモアが務めました。狩野教授は幼児・児童英語、小学校外国語活動が専門で、英語科教員の養成や、現任教員の英語授業の改善・指導にも関わっています。また、弊社のデイブ コリモアは弊社から全国に配置されるALTの初任者研修や配置後の研修を担当する、ALT養成のエキスパートです。

ファイナリストは1人ずつ自分が接続したウェブカメラの前でスピーチを行い、その後、審査員と質疑応答し、講評を受けます。小学生の英語の習得範囲や期待される授業での取り組みを考慮し、即興的に「やり取り」する機会も設けられたのです。

最終選考に参加した子どもたちは緊張しながらも堂々としたスピーチを披露。狩野教授やデイブ コリモアの質問に英語で応答していきます。講評を受け止める表情も真剣そのものでした。画面越しの緊張感が漂う中「自分の夢」を懸命に語る子どもたちの姿に、多くの視聴者が感銘を受けたのではないのでしょうか。



狩野晶子 教授 (上智大学短期大学部) デブ コリモア (リンク・インタラック)

夢は「手話通訳士」「精神科医」

厳正な審査の結果、一般部門の最優秀賞は岩国市立高森小学校(山口県)の先山美風さんに決定しました。先山さんは聞こえない友人との交流から手話通訳士になる夢を、手話表現を交えて語りました。講評で狩野教授は次のように述べました。

「伝えようとする気持ちがあふれた素晴らしい内容と表現力でした。私が教えた学生にも手話通訳士を目指し福祉を学んでいる人がいて、その表情の豊かさは先山さんとも共通しています。音のない世界で相手に伝えるために表情や体の動きがそのままコミュニケーションツールになっているのを感じました。オンラインで伝えること、違う言葉で伝えること、人と人とが伝えあうこと、いろいろなことの本質を先山さんのスピーチを通して皆さんも深く感じ取ったのではないのでしょうか。英語の内容、スピーチの内容、先山さんの日頃の努力や周りへの思いやりが結晶化して、今日の成績につながったと思います」。

デブ コリモアも同様に「英語の流暢さと表現力、夢に向かう力や、明るい笑顔が素晴らしかった」と講評しました。



【一般部門】
最優秀賞
先山美風さん
(岩国市立高森小学校)

帰国子女部門では、舞鶴市立三笠小学校(京都府)の河野リヨさんが最優秀賞を受賞しました。河野さんは精神科医になりたい夢を明確な理由とともに述べました。デブ コリモアは「夢への熱い思いを披露してくれました。とても力強く自信を持って話せたのは驚くべきことで、本当に素晴らしい説得力の高いスピーチでした」と評価しました。

狩野教授も「予選時からぐっと内容がしっかり伝わる話し方を練習したのが伝わってきました。内容も自身の体験に照らし、かみ砕いた英語を使いながらみんなに伝わるかを工夫したのが伝わってきました。説得力のある語りをするには、自分自身が殻を破り、パブリックスピーキングに向かう自分の姿を作らねばなりません。エネルギーと思いつきを照れずに妥協せず、全力で伝えたいことを言葉に乗せて伝えてくれました。その姿勢自体が最優秀賞につながりました」と高く評価しました。



【帰国子女部門】
最優秀賞
河野リヨさん
(舞鶴市立三笠小学校)

最優秀賞を受賞した2人には賞状、トロフィー、副賞として東京ディズニーリゾート招待券のほか、「あなたの夢を叶えるサポート」として、なりたい職業の体験学習のチャンスが贈られました。銀賞、銅賞には同じく賞状、トロフィーと、副賞としてオンラインによる英会話プライベートレッスンが贈られました。さらに応募した参加者全員に、審査したALTからのアドバイスを記入した「参加証(Certificate)」が贈られました。

表彰後、狩野教授はコメントで「Content(内容)とperformance(伝え方)のバランスが整ってこそ、力強い、相手に伝わるスピーチになります」と強調。学習指導要領で「話すこと」が、即時性のある「やり取り」と、十分に準備と練習ができる「発表」に分かれる点や、それぞれ求められる内容や準備、評価規準が異なることを解説したうえで、ファイナリストの姿が「発表」活動の理想像だと位置づけ、参加者および関係者を激励しました。

一人ひとりが発信する場の創出を目指して

盛況のうちに幕を閉じた「子どもたちのドリームサポートプロジェクト 英語スピーチコンテスト」は、今回、応募や審査をオンライン形式にしたことで、全国各地のたくさんの小学生から応募いただきました。地域や学年の垣根を超えてオンラインで参加できる点、また、子どもたちが1人1台タブレットを活用して練習・収録できる点において、各学校や自治体の「話す[発表]」の活動のヒントになるのではないのでしょうか。

リンク・インタラックは英語を活用し、一人ひとりが自己表現できる場の創出を通じて、これからも日本の英語教育の発展に力を尽くしていきたいと考えています。

結果発表

「子どもたちのドリームサポートプロジェクト 英語スピーチコンテスト」

最終審査：2022年11月20日(日)オンライン

一般部門

- 最優秀賞 = 先山美風さん(山口県・岩国市立高森小学校6年)
- 銀賞 = 加藤愛さん(東京都・杉並区立杉並第十小学校6年)
- 銅賞 = 竹本光璃さん(富山県・富山市立芝園小学校6年)
- 入賞 = 豊澤翼さん(福島県・喜多市立塩川小学校4年)、
先田向日葵さん(滋賀県・東近江市立蒲生西小学校6年)

帰国子女部門

- 最優秀賞 = 河野リヨさん(京都府・舞鶴市立三笠小学校6年)
- 銀賞 = 横山友宥さん(福岡県・筑後市立水田小学校4年)
- 銅賞 = 北原クリスティーン光恵さん(東京都・港区立本村小学校6年)
- 入賞 = 細谷花さん(茨城県・ひたちなか市立長堀小学校5年)